

## 第4回 武蔵野市生涯学習計画策定委員会 議事録

日時 令和元年7月11日（木）17時30分～19時  
会場 吉祥寺図書館 まなびとつどいのへや  
出席者 板垣文彦委員、宇佐見義尚委員◎、北村淳子委員、助友裕子委員、嶋田晶子委員、  
白田紀子委員、花田吉隆委員、松村勝人委員、斉藤愛嗣委員  
◎委員長

資料 資料1 第3回委員会での主なご意見と対応予定  
資料2 第3期教育振興基本計画（国）における課題認識

### 次第

#### 1 計画の骨子案について（第1章～第3章）

事務局より、資料1を用いて第3回委員会での意見に対する対応予定について説明を行った。また、資料2を用いて国における生涯学習にかかわる課題認識について説明を行った。

委員長 議論に入る前に、資料1にまとめられた意見の中に自分の発言が漏れていないか確認いただきたい。

委員 武蔵野市らしさを考える上ではコミュニティセンターの位置づけを整理する必要がある。生涯学習の範疇にかかわることであり、どのような関係があるか明確にしてもらいたい。

委員長 資料1の意見9への対応予定に、コミュニティセンターについて議論するという追記してもらいたい。  
ところで、資料2の参照元となる第3期教育振興基本計画の冊子を提供いただけるか。

事務局 大部になるが、それでよいようなら提供する。

委員長 自分はそれでもよいので内容を確認したい。他にも提供いただきたいという方がいれば事務局にその旨を伝えてもらいたい。

委員 資料2で示された内容の根拠となるデータ等を準備いただきたい。

委員 第3期教育振興基本計画に掲載されているので、それで確認できるはずである。計画は概要版で確認すればよいと思う。

事務局 概要版は全員に配布し、計画の本冊子は希望する方に配付する。

#### 骨子案 第1章について

委員長 骨子案の第1章について意見交換をしたい。ここに「豊かさ」や、個人と社会に対する生涯学習の目的について言及されている。

委員 資料2に示された課題認識は第1章に書き込むのか。それとも第2章になるか。

事務局 国の動向としてまとめるなら第1章になるだろう。その背景となる課題認識を武蔵野市に適応させて記述するなら第2章になるだろう。

委員 課題認識では雇用に触れられているが、技術革新に伴うかぎりのものではない。現在、終身雇用という仕組みが変化しており、そのために不安が感じられていると思う。また雇用自体が不安定になっている。その状況に対して生涯学習がどのように対応していくのかということとは大きな課題なので、見出しのレベルで取り上げてもらいたい。

委員 また、対象として高齢者が見当たらない。高齢者には前期高齢者と後期高齢者に分けられるが、前期高齢者はアクティブシニアと呼ばれるようになっていることを踏まえると、生涯学習で捉えるべきではないか。動機を持ちながら活動できていない高齢者を取り込むことができれば、まちの資産になるのではないか。子どもや若者と同様に取り上げるべきだと思う。

委員長 雇用に対する意見は、働き方改革にかかわることだと考える。

事務局 資料2は国の考え方を参考に示したかぎりであり、計画では武蔵野市に適応させた上で掲載する予定である。

委員長 国の考え方を踏まえつつも、とらわれ過ぎず、自分たちなりに考えていけるとよいと思う。意見のあった雇用と高齢者については課題として検討していきたいと考える。

委員 第1章はこれでよいと思う。あまり内容を盛り込まず、シンプルに打ち出した方がよい。

委員 資料2にSociety5.0という社会認識が示されているが、この委員会において、その内容が共有されているのかが気になる。自分は、情報社会の次の姿であり、ヴァーチャルな空間が広がるものだと理解しているが、それ以外の視点があれば教えてもらいたい。

委員長 そもそも人生100年時代はどのような経緯で言われて始めたのか。

委員 自分の理解では、現在の安倍政権が働き方改革を進める中で、イギリスの研究者が提唱した人生100年時代という概念を取り込み、政策として検討し始めたのだと理解している。

委員長 すべての人が100歳まで生きるわけではないのに、このような言葉を大きく打ち出してもよいのか。

委員 2007年に生まれた子どもの半数は100歳まで生きるという学説もある。将来を考えて人生100年時代という言葉は打ち出してよいと思う。

事務局 人生100年時代という考え方を提唱したイギリスの研究者は『ライフ・シフト』という本を発表している。その中では働き方が変わるという考え方が示されており、キャリアを変えながらステップアップする上では学び続けなければいけないという見解が示されている。人生100年時代という考え方は、100歳まで生きるかどうかという事実よりも、雇用の問題として捉えられていると認識している。

Society5.0については共通認識を持つ必要があると考えるので、その点は議論いただきたい。

委員長  
事務局

Society5.0について説明いただけるか。

Society5.0というのは、人工知能やコンピュータが車や家電等の機器に搭載され、遠隔での操作はもとより、動作が自動化されるようになる社会として想定されている。産業革命から数えて情報革命が4番目であったことから、5番目の社会という意味でSociety5.0と言われている。

委員長

Society5.0を享受できる人もいるかもしれないが、そうでない人も発生してしまう。

委員  
委員

そのような変化を受け入れ、適応することも学びになるのではないか。

そのような社会が到来するのであれば、適応するために学ぶということは必要だろう。ただ、そのような社会における生きがいや豊かさについては問わないといけない。適応することを目的としない学びもあり、それが何をもたらすのかということを考える必要はあるだろう。

委員長

そのような社会をよいと思う人もいれば、それを避ける人もいるのではないか。

委員

現在もインターネットに接続された時間が長くなっている。しかし、そのような時間はヴァーチャルでしかない。「いいね」をもらったとしても空虚なのではないか。だからこそ、生きがいや豊かさを考えるべきだと思う。

委員

ヴァーチャルでない体験を提供しようとしても、武蔵野市に野山をつくることは不可能だ。それであれば、自治体間で連携し、野山を求める人は地方に出かけられるようにすればよいのではないか。武蔵野市はハブとして機能するとよい。

委員

武蔵野市には提携している自治体もあれば、セカンドスクールの試みもある。今後も、そういった取り組みを続けていけばよいと思う。

委員長

Society5.0や人生100年時代とは異なる、武蔵野市らしいキーワードが出せればよいのではないか。

委員

それらは時代的な背景であり、現状だと認識している。否定するものではなく、事実として受け止めるべきではないか。武蔵野市らしさは、その背景を踏まえた各論に盛り込めばよいと思う。

委員長

Society5.0が生産革命によって生じる時代の区切りであれば変化していくものなので、慎重に考えるべきテーマなのではないか。

委員

テーマというよりも、背景として書かれているのだと思う。

委員

第1章では変化していく方向を考えた上で、それを記載する必要があると思う。用語はいまのままでよいが、内容については考えた方がよいと思う。

事務局

骨子案では十分な説明をしないまま用語を使っており、そのため議論しにくい状況になっているかと思う。計画として発行する際には用語の説明もするので、分かりやすくなると思う。

- 委員 自分も言葉はそのままでよいと思う。武蔵野市がこれから行おうとすることを背景なので、事実として言われていることとして記載するとよいと考える。
- 委員 先ほどSociety5.0を取り上げたのは、その言葉を取り上げるかどうかを問うたのではなく、認識が共有されているかどうか気になっていたということだ。新しい考え方なので、注意した方がよい。
- 委員 社会動向との関係もあると思うが、第六期長期計画の認識とも整合を図っていく必要があるだろう。社会と市政の二層構造で考えていく必要があると思う。
- 事務局 第六長期計画では人生100時代には触れている。Society5.0という言葉は用いてはいないが、今後の情報化については触れている。それを踏まえて生涯学習計画の背景も組み立てていけるとよいと考える。また、用語説明についても、第六長期計画と同様に記載したい。
- 委員 現在の骨子での文章では市民には分からないと思うので、その点は留意いただきたい。

#### 骨子案 第2章について

- 委員 市内の生涯学習に関する市関連施設でいくつか間違いがあるので修正していただきたい。
- 事務局 了解した。
- 委員 「市が提供する主な学びの機会」の表に老壮大学が取り上げられていないが、市が提供する主な学びの機会に入らないのか。
- 委員 生き生きセミナーの一環となると思う。ただ、同表に掲載する事業は精査してもらいたい。
- 事務局 前回の委員会でご指摘をいただいているので、次回委員会では更新した表をお示しする。  
ところで、骨子案の6頁に記載している被保護率と課税対象所得のグラフだが、経済状況に直接かかわる内容なので、計画として発行する際には掲載しないようにしたい。その点について意見をいただきたい。
- 委員長 一般には公表されているものなのか。
- 事務局 統計としては公開されているが、福祉や財務とは異なる生涯学習分野の発刊物で一般に公開することを気にしている。
- 委員 6頁の経済的余裕と学びの相関に関する記述は何が根拠となっているのか。
- 事務局 アンケート調査結果から得られたことである。ただ、現時点では相関について統計的に検証しているわけではない。
- 委員 記述するのであれば検証は行った方がよい。また言葉づかいを変えることも考えられる。

- 委員長 確かに相関という言葉よりも、関係ぐらいの方がよいかもしいない。
- 委員 生涯学習計画を策定するにあたり、行政が提供する生涯学習の機会を増やしていきたいと思っているのか。教育長が言っていたように、自主的に行うことを促し、機会を減らしていくという考え方もあると思う。武蔵野市としては、どのように考えているのか。
- 委員 それを議論するのが委員会なのではないか。その議論を踏まえて行政が検討するのではないか。
- 委員長 行政による生涯学習の機会提供のあり方については検討していきたい。第2章については、詳細は詰めていかないといけないと思うが、枠組みとしてはこのような内容でよいだらうと思う。

### 骨子案 第3章について

- 委員長 第3章は核心となる部分だと思うが、何かあるか。
- 委員 武蔵野市らしさを考えてみたのだが、なかなか思い当たらない。思いついても独自性がない。ただ、先ほどのハブというあり方は、まさに多様性が入り込んでくるので、自分としてはよいと思う。
- 委員長 地方では、武蔵野市は革新的だという印象があるのではないか。
- 委員 吉祥寺の印象は強いかもしれないが、武蔵野市という認識は薄いのではないか。
- 委員長 前回の委員会では、武蔵野市らしさは自分の暮らしを大切にする人が多いという意見もあった。
- 委員 基本理念に何を盛り込むのかというのは大変難しい。ただ、これまでの議論を踏まえると、あらゆるライフステージで学び続けることで幸せになるということが大事なのではないか。にもかかわらず、キーワードに「学び直し」が入っていないことも気になる。
- 委員長 「学び送り」がそれに該当するのか。
- 委員 「学び送り」は次の世代に伝えていくことだと思う。「学び直し」は自身自身の問題として行うことだろう。
- また「地域」という言葉が用いられているが、「コミュニティ」ではないのか。
- 委員長 「地域」に「コミュニティ」という考え方が含まれているのではないか。
- 委員 武蔵野市のコミュニティの考え方としては、地域のつながりとともに、目的によってつながるものもある。
- 委員 資料2にコミュニティの弱体化という話もあったので、キーワードとしては「コミュニティ」の方がよいと考える。
- 事務局 骨子で示しているキーワードは、検討いただくためのガイドラインと考えてもらいたい。
- 委員 キーワードは基本理念をつくる上での素材なのではないのか。

事務局 これまでの議論で出てきた言葉をキーワードとして取り上げた。これらを前提に議論していただく必要はない。

委員 それであれば「学び直し」と「コミュニティ」は取り上げてもらいたい。  
委員長 基本理念に取り上げるキーワードについては、今後も議論の中から抽出していただき、取りまとめていくようにしたい。

#### その他

委員長 最後に今後の進め方を事務局から説明いただきたい。

事務局 次回・次々回で素案を示し、委員会で検討いただくこととなる。

委員長 素案の執筆は事務局が行うのか。委員が執筆する機会はあるのか。

事務局 基本的に事務局にて執筆する。それについてご意見をいただき、加除修正することで答申としてとりまとめたい。

## 2 事務局からの連絡

事務局より、次回委員会を8月8日（木）17時30分より武蔵野プレイスにて開催することを連絡した。

以上